

2021年度 FD活動評価点検報告書

1. 中部大学のFD活動組織について

本学における教育活動・改善に向けた教員の資質向上策としてのFD (Faculty Development) 活動は、図1のように、学長を委員長とした全学FD・SD委員会のもと、各学部FD委員会および各学科組織があり、全学体制のFD活動ワーキングが中心となって種々の検討を行っている。また、教育活動顕彰審査選考委員会やFD活動評価点検委員会が組織されており、FD活動の内容について評価できる体制が整っている。なお、全学FD・SD委員会および学部FD委員会は、2007年度まで本学に設置されていたFD推進委員会および学部でのFDに関する諸活動をそれぞれ2008年度より新しく改変した組織である。また、主管部署として、大学企画室高等教育推進部（教員2人、事務員3人で構成）がFD活動の推進・支援を行っている。

さらに、「大学設置基準等の一部を改正する省令」が2017年4月1日から施行され、SD (Staff Development) が義務化されたことを受けて、本学の教員・職員のキャリア形成を図る組織的な取り組みを推進するため、2019年度に全学FD委員会を全学FD・SD委員会に再編し、その専門委員会としてSD活動WGを新たに設置した。全学FD・SD委員会により企画・開催されるFDプログラムは、大学教育を支援する職員のSDプログラムとしても機能しており、職員も教員と共に参加することで自らの職務遂行上の資質向上に役立てている。

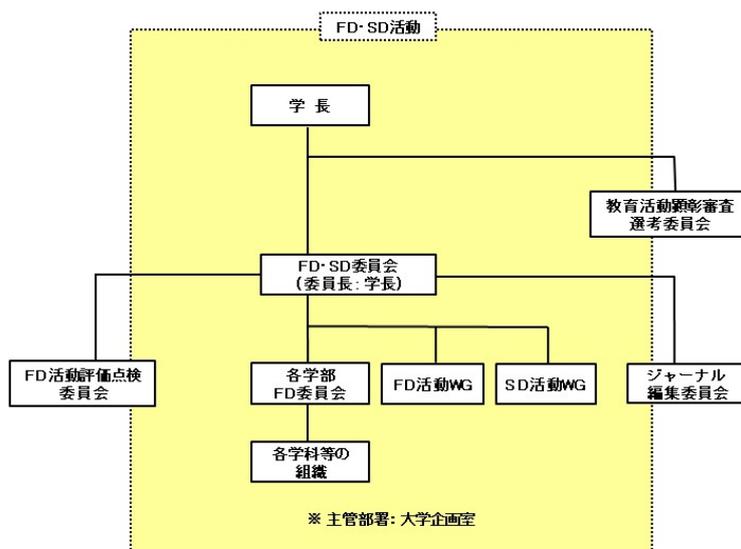


図1 中部大学のFD・SD活動組織図

FD・SD委員会：本学のFD・SD活動全般について、学長を委員長として審議、検討をする。

FD活動WG：FD・SD委員会の専門委員会として、学部代表のFD委員を中心に主に全学的な活動を企画する。

SD活動WG：FD・SD委員会の専門委員会として、SD活動の全学的な推進を図る。

FD活動評価点検委員会：本学のFD活動全般について、第三者的な立場にたって評価点検をする。

教育活動顕彰審査選考委員会：教育活動顕彰制度に係る重要事項、および受賞者の審査、選考する。

ジャーナル編集委員会：FD・SD委員会の専門委員会として、高等教育（大学教育）全般に関する研究成果、および本学での教育に関する分析研究、実践報告等を学内外に発表するために『中部大学教育研究』を発行する。

2. 本学の FD 活動評価点検の対象

本学の FD 活動は、次の表に示すように 3 つの観点から分けられる。広義の FD 活動の目的となりうる「カリキュラム改善」や「組織の整備・改革」に関する諸活動は、FD・SD 委員会の所掌事項でないため、これらを目的とした活動（網掛け部）は、本報告書の内容には含めていない。なお、授業担当者のみの授業改善の活動は、「教員活動重点目標・自己評価シート」と「学生による授業評価、教員による授業自己評価」によって実施され、後者は学内向けにホームページ上で公開されている。

表 1 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動

【※1】 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動（網掛け項目は除外する項目を表す）

目的別にみた FD 活動	対象別にみた FD 活動	形式別にみた FD 活動
1) 授業・教授法の改善	1) 全学対象	1) 会議
2) 教員の資質向上（研究交流を含む）	2) 学部・研究科対象	2) 研修会・懇談会
3) FD 活動の企画・運営など	3) 学科・教育科対象	3) 講演・報告会
カリキュラム改善	(*1) 非常勤講師を含む	4) ワークショップ・セミナー
組織の整備・改革	(*1) 学生を含む	5) 制度・システムの構築や改良、出版など (*2)
	授業担当者	

(*1) : 対象別 1) ～3) で非常勤を含む場合、学生を含む場合

(*2) : 授業評価システム、授業改善アンケートの制度の運用やシステムの構築や改良、および出版などが該当

3. 2021 年度の FD 活動の重点目標

FD 活動の重点目標として 2008 年度より 5 年間を目安とした『魅力ある授業づくり』は、2013 年度以降も重点目標とすることが 2012 年度の FD 委員会で決定され、以下の考え方をもとに 2021 年度も継続して FD 活動を進めてきた。

『魅力ある授業づくり』は、学生と教員が協同して行うものです。

魅力ある授業・・・（学生にとって）興味を持って聴ける授業、将来において役立つ授業
 （教員にとって）学生の成長を実感できる授業、学生から感化を受ける授業
 授業づくり・・・（学生が目指す）自主的に学ぶ態度、知識・技術の修得
 （教員が目指す）授業改善、授業スキルアップ
 （学生と教員が目指す）双方向のコミュニケーション

本学では、評価点検の結果から改善を繰り返し、個人レベルから、学部学科を越えたグループ、学部学科、全学を対象に活発な FD 活動を進めてきた。こうした中、教育実践現場である各学部では、以下のような FD 活動の目標設定を行い、FD 活動に積極的に取り組んだ。

(1) 工学部・工学研究科

FD・SD 講演会、FD フォーラム、FD カフェ等に積極的に参加し、「魅力ある授業づくり」を理解し着実に実行するための組織的サポートを行う。

- 1) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を開催し、受賞者より「魅力ある授業づくり」について講演頂き、各教員の「魅力ある授業づくり」の一助とする。
- 2) 「魅力ある授業づくり」に相応しい話題を見つけ、工学部 FD 講演会として随時開催する。
- 3) 全学公開授業、授業サロン、FD カフェ、キャリアアッププログラムなど、学内で開催されるセミナー等への参加を強く推奨し、工学部内での情報共有を図り、各教員の「魅力ある授業づくり」の一助とする。
- 4) 遠隔授業に関する技術的サポートのための情報収集を行う。また、場合によっては、技術指導のための講演会、工学部 FD 委員会委員から学科内への展開を通じて、情報共有を行う。
- 5) 「CU ルーブリックライブラリ」「Cumoc」を積極的に活用し、授業に反映させ「魅力ある授業づくり」に努める。そのための講演会を開催する。

(2) 経営情報学部・経営情報学研究科

- 1) 『魅力ある授業づくり』に関する目標
 - ・学生の「授業評価」への参加を向上させると共に、教員は「授業評価」をもとに授業改善に務める。
 - ・本学の「教育活動顕彰制度」の受賞者による講演会を開催し、「魅力ある授業づくり」について報告いただき、各教員のスキルアップにつなげる。
- 2) ハラスメント講演会の実施

ハラスメントに関する講演会を実施し、教育研究の場で起こりうる様々なハラスメントの防止・対策に努める。
- 3) 経営情報学部研究会の定期的な開催

研究の情報交換、共同研究のネットワークづくり、研究のブラッシュアップの場として、経営情報学部研究会を定期的に開催し、教員の資質向上に努める。
- 4) (学部) 入学前教育プログラム実施報告会の実施

入学前教育プログラム実施報告会を実施し、今年度入学の新生入生に関する理解を深めると共に、入学前教育のあり方を検討する。
- 5) (大学院) 学生の授業評価に基づいた授業内容の改善

授業アンケートにより得られた学生からの意見を共有し、授業内容の改善及び大学院教育の充実に努める。

(3) 国際関係学部

- 1) 【授業・教授法の改善】

現在、本学部が重点を置く以下の項目に関して、「実施方法の改善、留意点」などに関する情報共有を促進していく事で、本学部の『魅力ある授業づくり』に資する内容の FD 活動としていきたい。

 - ①学生と協働して創り出していくまったく新しいスタイルの授業「ハイブリッド・プロジェクト」の実施を通じて、学生の最新の学修ニーズを確認した後、学部構成員による情報共有を推進、他の授業科目にもフィードバックし、専任教員が担当する授業のより一層の質の向上を推進する。また、この新たなスタイルの授業を多くの教員が担当することで、教員側の成長をも図る。
 - ②低学年向けの演習系の科目（スタートアップセミナー、国際基礎演習、国際応用演習 A、同 B）に関しては、学年・学期ごとに「コーディネーター」としてまとめ役の責任者を決

め、授業の事前と事後のフォローアップを担当者全員で行い、学生の学習状況の把握に努める。またコーディネーターを持ち回りにすることで、すべての教員が科目内容の改善や質の向上に参与するようにする。具体的には、自己点検・評価の実施の過程で、成績評価基準の統一および改善点を担当者間で共有し、さらには学部教員全員が共有するとともに、そのエビデンスを保存する。

③「国際関係学部 Web ポートフォリオ」の一層の活用を図る。具体的には、レポート等の成果物を逐次アップする過程をとおして、学生が主体的に学修状況を把握できるように指導する。

2) 【学部全般の運営についての検討】

①まず、教員の心身の健全に留意し、ワークライフバランスを実現する必要がある。そのために、教員数のスケールメリットを活かして管理運営業務の可視化と教員間の分担を可能にする。その上で、『魅力ある授業づくり』に資するため、研究時間を確保し、研究力を高める。

②「卒業研究」への取り組みについて、本学部が多ディシプリンの専門領域を持つことに鑑み、2019年度から開始した「卒論閲覧会」等を通じ、教員間に共通の認識を醸成する。

③2019年度から試行している学生主体の「外国語スピーチエキシビジョン大会」を契機に、外国語を中心とした学生の自学習を推進する体制づくりを行う。場合によっては、遠隔での実施も検討する。

④本学が推進するSDGsにかかる学部の講演会、研究会、シンポジウムなどを実施し、「授業外の学びの機会」を提供していくことで、学生のモチベーションの向上と、教員の知見を深める。本学が行ったSDGsアンケートを分析し、下（学部）からのSDGsを模索する。このほか、高大連携研究会、地域・企業連携研究会（春日井市SDGs推進企業との意見交換会を含む）も検討する。2020年度から開始した学部主催の遠隔授業講習会も引き続き実施する。

(4) 人文学部

1) FD・SD活動の目標

①高校と大学との連携を強化し、スムーズに大学教育への移行を図る。

②学生の主体性を育成するための魅力ある授業づくりの実現に向けて取り組む。

③学生と教員によるフィールドスタディを通じて春日井市を中心とした地域社会との連携を強化する。

2) FD・SD活動の計画

人文学部では各学科の特性を生かしつつ、複雑化する現代社会の課題に応えることのできる「確かな学力」と「コミュニケーション能力」を兼ね備えた「あてにされる人間」の育成を目標とする。学生には学内および課外活動を通じて人と積極的に関わることで多様な視点を獲得し、主体的に考え行動できる力を身に付けさせる。

①各教員が学生ポートフォリオの活用をとおして日々の学習態度に関する情報を共有し、学力向上・維持に向けた意見交換を図る。併設校を中心とした高大連携の強化および各学科にて初年次教育を細やかに実践し、かつ独自のピアサポーター制度を活用することにより、恵那研修等の行事をとおして1年次から自己の将来像を意識させることに取り組む。

②『魅力ある授業づくり』に関し、学生・教員の「授業評価」への参加を向上させ自己の授業改善に努める。秋学期には、教育活動顕彰制度で表彰された教員の報告会を行い、意見交換を図る。

- ③自己点検・評価における全学的課題のうちの「シラバスと講義内容との整合性の検証」について、各学科で検証方法、および問題があった場合の対応方法を確立し、実施する。
- ④自己点検・評価における全学的課題のうちの「内部質保証体制の充実」について、毎年の自己点検・評価の書類を提出する前に学科間で客観的視点からチェックし合い、要改善点等の認識も織り込んで提出するようにする。
- ⑤従来の講義形式と学生に能動的な学修を求める参加型学習法である双方向型授業を組み合わせた授業や学科横断的な授業に取り組むこと。加えて遠隔授業やオンライン授業の充実化を図るための情報交換を行う。学部所属教員全体に本学部および本学の FD・SD 初年次教育関連の講演会・セミナー・研修会への積極的な参加を促す。

3) FD・SD 活動の実践に向けて

魅力ある授業づくりとは、「学生と教員が協同して行うもの」である。学生に興味を湧かせ将来役に立つ授業および教員にとって学生の成長を実感し、常に学生から感化を受ける授業を意識しながら、学生との日頃のコミュニケーションに基づき、学生にとってわかりやすい魅力ある授業づくりを推し進め、学部全教員はそれを実現できるように FD・SD 活動を行う。

(5) 応用生物学部・応用生物学研究科

1) 応用生物学部 FD 推進委員会

○委員会の開催

定期的に委員会を開催し、2020 年度 FD 活動の評価点検、2021 年度目標達成への活動推進、2022 年度の活動目標の設定を行うほか、必要時にはメールにて審議・連絡を行う。

○学部 FD 活動目標

－FD 活動の見える化、共有化を目指す－

○『魅力ある授業づくり』に関する目標

- ①『魅力ある授業づくり』に関して、授業改善につながる学部内の報告会や意見交換会を計画する。特に、教育活動優秀賞を受賞した教員をパネラーとした討論の場を設け、授業改善に向けた情報共有を行う。
- ②『魅力ある授業づくり』に関して、学生による授業評価、教員による授業評価、およびコメントへの回答の回収率向上を具体的目標として学部全体で継続し、取り組む。
- ③『魅力ある授業づくり』に関して、各教員の授業改善に関する重点目標、および授業評価コメント一覧の良かったところ、改善点等を参考とし、自己の授業改善に努める。

④学部 FD 講演会開催

多様化する学生を支えるため、学生サポートや授業改善に関する講演会や意見交換会を開催する。

- ⑤各教員は、全学 FD 講演会その他の全学レベルの FD 支援活動に積極的に参加する。

2) 学科（専攻）、研究科等

学科会議、研究科委員会などを通して定期的に FD 情報（教務モニター、授業アンケートなど学生の意見、FD 講演会その他の内容等）の交換を行い、必要に応じ目標設定を行う。

(6) 生命健康科学部・生命健康科学研究科

- 1) [学部] 春学期中に授業検討会を行い、学部の共通の課題を議論すると共に、学生にとって有用な魅力ある授業となるように課題解決を目指していきたい。
- 2) [学部] 実習科目、演習科目については可能な限りルーブリック評価の導入を目標にする。

- 3) [学部] 各学科の特色をより活かした教育につながる FD 活動もあわせて実施する。
- 4) [大学院] 大学院特論等において、授業評価アンケートを実施し、その結果を担当教員で共有することにより授業改善に役立てる。
- 5) [大学院] 大学院担当教員は学部教員とほぼ重複するため、学部における FD 活動内容を共有して大学院教育に活かす。
- 6) [大学院] パンフレット「研究の心得」を活用し、より一層の教育・研究の内容を高める。
- 7) 秋学期の終了時に、学部・研究科教員全員を対象にした『魅力ある授業づくり』につながる FD 講演会（研修会）を計画する。

(7) 現代教育学部・教育学研究科

1) FD 活動の目標

①現代教育学部

- ・教員の『魅力ある授業づくり』のための力量向上
- ・現代教育学部における現状と課題についての共有
- ・新しい大学教育、特にカリキュラム開発の研究を他学部との交流を含めて探究する。

②大学院教育学研究科

- ・学部、現代教育学研究所と連携した授業改善と大学院教員の資質の向上
- ・他大学・他学部との研究交流の実施による教育・研究の創発
- ・共同研究と外部資金獲得の試み

2) FD 活動計画

①現代教育学部

現代教育学部の教育研究に関する新たな試みを模索する。そのために、FD&SD 講演会を開催し、互いの研究内容を把握して、今後の研究交流の方針を定める。

現代教育学部および大学院の教員の教育・研究のポテンシャルを高め、『魅力ある授業づくり』のための力量向上を目指して、学内外からの講師を招聘し、年度内に数回の FD&SD 活動を実施する。

②教育学研究科

教育学研究科として、研究・教育の一層の発展を目指すために、現代教育学部において実施される FD&SD 活動と連携し、FD&SD 講演会を共催するとともに、研究科が主催して FD&SD 講演会を実施し、構成員の教育・研究活動の推進を図る。

(8) 人間力創成総合教育センター

センター設置の理念の下、センターの FD 活動の継続的推進を図る。EP を越えた FD 活動はどのようにあるべきかについても議論し、各 EP が担当する科目の教育内容・教育理念に関して、懇談会・研修会を通してコロナ禍における講義の充実について検討するとともに教材提供等による教員間の共通理解の形成を図る。さらに魅力ある授業づくり等に向けての取り組み（例えば、授業方法の改善、学生による授業評価、教員による授業自己評価の実施率を高める等）のための学外の研修会や教育関連学会への参加等の各種方法についても検討する。

特に、教育経験の浅い教員が十分な教育経験を有する教員との交流・指導を通じた FD 活動を展開したい。さらには各 EP 担当科目の魅力ある授業づくりのための改善（授業方法・授業内容・体制・施設・設備等の改善・充実と学外の研究会・ワークショップへの参加によるスキルアップ等）をより一層図るとともに、科目の精選に関する考察を深める。

また、文科省中教審で計画的展開が要請されている「高大連携・接続」の一環として、本学が進めている併設高校との高大連携授業ではセンターが担当する部分が多く、関係教員とのFD活動を通じて、本学にとっても高校(生)にとっても魅力ある授業づくりを検討する。

(9) 国際人間学研究科

1) FD活動の目標

①構成員の専門分野が社会科学・人文科学に跨る多彩な学問領域であり、学生も様々な国籍・年齢層にわたるため、研究会・発表会などを通じて互いの専門分野についての理解を深め、多角的視点から専攻を越えた教育・研究指導を行える環境を育む。

②2021年度から開始される研究科横断的新教育プログラム(持続社会創成教育プログラム)に対し、本研究科として可能な貢献の在り方を検討し、プログラム履修生の目標に応じた教育を実践する。

③学外の研究者や地域との交流による研究・教育能力の向上を図りつつ、学生の要望や意見もくみ上げながら「魅力ある授業」をつくりあげていく。

④様々な文化背景をもつ学生が所属することから、著作権・肖像権・個人情報保護等、研究倫理に関わる事項について、まず教員が正確な知識を身につけ、これらの侵害がないよう指導を徹底する。

2) FD活動の計画

①これまで継続的に実施してきた研究科の所属教員による研究報告会(年2回)、学生とその指導教授による研究報告会(年2回)を開催し、報告誌Glocalを2冊刊行するとともに、教員間・学生間の相互理解や交流を深める。

②学外から専門家・識者等を招き、シンポジウムや講演会などの形態をとりながら、教育・研究の向上に資する知識・情報・ノウハウの吸収に努める。

③国際関係学、言語文化、心理学、歴史学・地理学の各分野、また、それらを横断的につないだ分野でのシンポジウムや講演会の実施を促進し、その成果を「魅力ある授業づくり」に活かしていく。

④国際人間学研究所が推進している「持続可能な観光」プロジェクトと連携しつつ、研究科としての社会連携・地域連携をさらに推進する。また、研究所と連携して科学研究費等の外部資金の獲得に向けた情報交換会を行ない、特に若手研究者の応募促進に努める。

⑤上記の計画を実現するためにFD活動への積極的な参加を促す努力を継続し、研究科全体のFD意識を向上させる。

4. 2021年度のFD活動の取り組み

4. 1 全学の取り組み

2021年度の全学としての取り組みは、大学企画室高等教育推進部のWEBサイトに詳細が掲載されている(<https://www.chubu.ac.jp/fd/>)。主な取り組みは、(1)教員による教員活動重点目標の設定および自己評価 (2)授業改善の取り組み (3)FDフォーラム・講演会 (4)キャリアアッププログラム・FDに関する研修会等 (5)FDカフェ (6)出版物 (7)教育活動顕彰制度 (8)中部大学『魅力ある授業づくり』プログラムの実施 (9)FDオンデマンド講義(全国私立大学FD連携フォーラム実践的FDプログラム)の提供 (10)第3回中部大学発『魅力ある授業づくり』～学生と考える「魅力ある授業」～等である。なお、これらの現状と評価を記述する。

(1) 教員による教員活動重点目標の設定および自己評価

近年の内部質保証の観点から、教育のみならず研究、社会貢献、学内行政等についても評価・点検の実施、および改善向上が教員には求められている。このことを反映して、「教員活動重点目標・自己評価シート」では上記の4つの責務（教育・研究・社会貢献・学内行政）について、年度初めに各教員が教員活動重点目標を設定し、年度末に自己評価を行っている。2018年度から大学設置基準上で教員と区分される助手（教育・研究の補助を主たる職務とする）も対象とし、これを機に全学部共通のレイアウトに変更となった。2021年度の目標設定者は在籍教員の該当者515人中500人（未提出者15人は、欠勤等により提出できない者）、自己評価提出者は目標設定者500人中490人（未提出者10人は退職、欠勤等により提出できない者）であり、ほぼ全ての教員が提出した。

(2) 授業改善の取り組み

『魅力ある授業づくり』のための主な取り組みとして、以下の7つに取り組んできた。

1) Webによる「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」

「授業評価」の学生の回答率は、春学期約39%（昨年度は未実施）、また秋学期約32%（昨年度は約37%）であった。自由記述においては、春学期2,956件、また秋学期2,319件（2,673件）であった。学生の回答率については、コロナ禍以前と比べてかなり高い値であり、遠隔と対面授業が併用される中で、学生が授業評価に高い関心をもっていることが示された。

一方、教員の自己評価回答率は、春学期約60%、また秋学期約62%（昨年度62%）であった。さらに、コメント率は、春学期約66%、また秋学期約64%（昨年度67%）であった。いずれもここ数年と比較してほぼ同じ値ではあるが、非常勤講師の回答率およびコメント率がともに50%程度に留まり、全体の値を押し下げる要因となっている。

2) 携帯電話を活用したクリッカーシステムの提供（授業改善アンケートシステム）

携帯電話やスマートフォンを活用して、授業中に教員がネット環境を使える場所であれば、学生の反応を瞬時に把握できる本学独自のクリッカーシステムである「Cumoc（キューモ：Chubu University Mobile Clicker）」を導入して12年目となる。2011年7月には、利用の研修を行う目的で「CumocL」を整備し、同システムを活用して2013年4月に一般的なアンケートシステムとして学内に提供を開始した。また、2017年度より、それぞれの設問間のクロス集計が可能になるよう改善した。

なお、「授業改善アンケート（Cumocの利用を含む）」は、春学期72件、秋学期32件で合計104件（2020年度103件）の利用であった。昨年度とほぼ同じ件数であるが、コロナ禍以前の水準（140件以上）と比べると減少している。遠隔授業が浸透して以降、多様なICTツールを教員が利用でき、学生とのコミュニケーション手段として活用していることもこの減少に関係していると思われる。

3) 授業改善ビデオ撮影支援制度

授業改善ビデオ撮影支援制度は、授業担当者からの希望による振り返りのための教育支援として撮影提供しているが、2021年度は、5件（2020年度0件）。また、「全学公開授業」は記録撮影が3件あった。

4) 授業のオープン化制度

授業担当者に申し出ることで、他の教員が授業を参観できるシステムであり、後述の「全学

公開授業」「授業サロン」もこの趣旨を基に実施している。

5)全学公開授業

「全学公開授業」を3件(2020年度1件)実施し、35人(2020年度16人)の教職員の参加があった。この公開授業では、遠隔授業をオンラインで見学する形態や、従来の対面授業を見学する形態、遠隔授業を対面で見学する形態と3種類の授業形態を見学実施する結果となった。実施者、見学者双方に授業改善のヒントが得られる取り組みとなっている。

6)授業サロン

専門が異なる学部を越えた5人の教員による授業見学とピアコンサルティングを行う「授業サロン」は、教員の遠隔授業への切り替え対応への優先、新型コロナウイルス感染拡大防止に鑑み、学生への配慮等から2020年度は実施取り止めとなっていたが、2021年度は募集し、秋学期に1グループ実施している(2020年度未実施)。

7)CU ルーブリックライブラリ

教育の質保証を目指す上での成績評価方法の1つであるルーブリックの「蓄積」から「共有」、そして「作成支援」に繋げることを目的として、2016年3月に運用を始めた。2022年3月末時点で29件(2021年度25件)の登録内容が公開されている。

(3) FD・SD フォーラム・講演会

以下の5件の講演会を開催している。2021年度は、何れも他組織との連携実施となった。

1)第53回 FD・SD 講演会「学生の人間力育成の向上にむけて

ーアセスメントテストの目的および活用方法についてー

講 師：黒田 紀夫 株式会社ベネッセ i-キャリア

参加人数：38名

*教務部との共催

2)第54回 FD・SD 講演会「学生の人間力育成の向上にむけて

ーアセスメントテストの目的および活用方法についてー

講 師：黒田 紀夫 株式会社ベネッセ i-キャリア

参加人数：40名

*教務部との共催

3)第55回 FD・SD 講演会「学生の人間力育成の向上にむけて

ーGPS・Academicの結果報告と今後の活用についてー

講 師：黒田 紀夫 株式会社ベネッセ i-キャリア

佐伯 守彦 大学 IR 推進部長

参加人数：39名

*教務部との共催

4)第56回 FD・SD 講演会「大学との連携による持続可能なまちづくり」

講 師：國島 芳明 高山市長

参加人数：73名

*地域連携センターとの共催

5)第57回 FD・SD 講演会「2025年度新課程入試を見据えた準備」

講 師：曾根 貴之 株式会社 学力評価研究機構 (クレア)

参加人数：54名

*入学センターとの共催

(4) キャリアアッププログラム・FDに関連する研修会等

2009年度から開催してきた「教員キャリアアッププログラム」は、教員の授業スキルを含めた「授業改善」に関連したプログラムはもとより、「ICT（情報技術）」や「学生への対応」など幅広い目的をもつワークショップである。教職協同のプログラムとして、職員も参加し実施してきた現状を踏まえ、2017年度から、「キャリアアッププログラム」と名称を変更し実施している。

2021年度は11回開催した（2020年度は23回）。大学企画室客員教授による「授業技術（話し方）」（6回）、「授業デザイン」に関するプログラム（3回）、および「授業技術・運営」（1回）に関するプログラムをはじめ、学内講師を招いた「学生への対応」プログラム（1回）を実施した。コロナ禍の中での開催であったため、すべてのプログラムをライブ発信形式で行った。オンライン実施ではあったが、グループ討論・作業を積極的に採り入れることにより、参加者間の交流やプログラム内容の習得を対面時とほぼ変わらないレベルで行えるよう企画している。

また、今年度も新任教員説明会は実施されず、本学FD活動の概要を資料送付にて説明している。

(5) FDカフェ

FDカフェは、教職員による自由な意見交換の場である。大学教育に関するさまざまなテーマ、学生と直面している必要な知識などの実践的なテーマに関して自由に意見を交わすことで情報やスキルを共有する場を提供することを目的として開催されている。2021年度は春および秋学期にそれぞれ1回（2020年度もそれぞれ1回開催）、新規採用者向けのスタートアップ企画、および遠隔授業の授業作りに関する内容を開催した。特に、後者では学生によるプレゼンテーションも盛り込み、学生目線でのICTツール活用についてのアイデアも共有する場となった。

(6) 出版物

『教育・研究活動に関する実態資料』及び『中部大学教育研究』を刊行している。前者は、様々な基礎データを集約し、学内各種制度や対外的な申請や審査の基礎資料として、また大学の情報公開のための基礎資料として活用されている。後者は、1979年より刊行されてきた『教育資料』を充実させ、新時代の大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供するものとして、教育改善・質的向上に役立てることを目的に2001年から刊行している。教員の情報共有の場ともなっており、特に研究論稿は教育研究の分野でも数多く引用される実績を有している。『中部大学教育研究』No.17から論文の投稿区分を見直し、要約・キーワード・英文タイトル等の追加、およびレイアウトの変更と、編集・投稿要項を改訂した。2021年度は、No.21として特別寄稿1編、一般投稿9編、IR報告として「学修成果に関する調査」の報告を掲載発行した。

(7) 教育活動顕彰制度

2008年度より学部における評価項目の重みを増加し、また個人だけでなく団体、グループ

に対しても表彰できる特別賞を取り入れた「教育活動顕彰制度」を導入し、毎年前年度の教育活動について表彰している。2017年度に、中部大学教育活動顕彰制度における教育活動優秀賞の4回目の受賞者に対して「教育活動金虎賞（きんとらしょう）」を制定し、2020年度受賞者が1人あった。その金虎賞を含め、2020年度の「教育活動優秀賞」は14人（2019年度10人）であったが、「教育活動特別賞」は、1グループ、1組織が受賞した。実施要項、選考総評等はWEBで公開されている。

(8) 『魅力ある授業づくり』プログラム

すべての教員（特に教育歴の少ない教員や新たに本学に赴任する教員）が持続的に教育力の向上を目指すことを奨励し、FDプログラムへの積極的な参加を奨励するために、FD・SD委員会が主催しているFDプログラムを活用して規定の要件を満たしたものに対して、本プログラムの修了証を授与している。修了の要件については、リーフレットやWEB上で公開されており、3年間の間に授業サロンまたは全学公開授業実施を必須としたポイント制をとっている。2021年度には3人の教員に修了証を授与した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、授業サロンなどの必須プログラムが実施できなかったこともあり、特例措置として、2021年度に修了要件を4年（対象年度：2018～2021）へ延長する措置をFD・SD委員会の承認を経て対応した。本学の特徴あるFDプログラムへのさらなる積極的な参加を促すきっかけになることが期待される。

(9) FD オンデマンド講義（全国私立大学FD連携フォーラム実践的FDプログラム）

FD オンデマンド講義は、本学が加盟している全国私立大学FD連携フォーラムが運営している実践的FDプログラムを活用したものである。同プログラムは、毎年4月に視聴希望者を募り、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察できる知識、技能、態度、アクティブ・ラーニングを実践する能力を修得するプログラムである。2021年度は個人17人、1組織（2020年度個人17人、2組織）が受講した。引き続き、啓発の機会として活用されることが期待される。

(10) 第3回中部大学発『魅力ある授業づくり』～学生と考える「魅力ある授業」～

本学の教育活動重点目標である『魅力ある授業づくり』を更に推し進め、学生と教職員がともに授業を考えるきっかけづくりとして4年に一度（2013年度、2017年度）開催されてきた作品コンクールを、2021年度は学生との討論の場を加味する形で実施した。授業改善に関する様々なアイデア・意見や授業あるある・つぶやき、川柳を募集し、前者38件、後者91件、計129件の応募があった。第1次審査（学生選考委員16名、FD・SD委員32名）、および第2次審査（FD・SD委員会）を通じて、Good Idea賞を8件選定した。

授賞式・発表会が2021年12月1日（水）に不言実行館アクティブホールで開催され、受賞者8人によるプレゼンテーションを基調とし、フロアの参加者も巻き込んだ活発な討論が行われた（参加人数：教員70人、学生44人 計114人）。記録集をWEBで公開している。

4. 2 学部・研究科での取り組み

各学部・各研究科において作成されるFD活動評価点検報告書から、各組織における2021年度に実施された取り組みを、以下にまとめた。

(1) 工学部・工学研究科

工学部の教員の『魅力ある授業づくり』に関する意識およびスキルを向上させるための FD 活動を推進する、という目標に基づき、多くの教員が取り組みを行った。

- 1) 「中部大学教育活動顕彰制度 受賞者による講演会」を 2022 年 1 月 12 日 (水) P.S.H に工学部ファカルティルーム(7 号館 3 階)から Zoom 配信とオンデマンド配信を行った。
- 2) 遠隔授業に関する技術的サポートのための情報収集を行い、工学部 FD 委員会委員から学科内への展開を通じて、技術的サポートを実施した。
- 3) ハラスメント防止 DVD を視聴した。

(2) 経営情報学部・経営情報学研究科

1) 入学前教育プログラム実施報告会の実施

2021 年 5 月 26 日 15 時 20 分より、進研アドに依頼し、入学前教育プログラム実施報告会を実施した。この報告会では、今年度入学の新入生に関する理解を深めると共に、今後の入学前教育のあり方を検討するためのデータを共有した。また、この報告会を受け、スタートアップセミナー担当教員に、入学前教育の個人データを配布し、学生指導に活用してもらった。

2) ハラスメント講演会の実施

2021 年 11 月 18 日 (木) 17 時より、中部大学学生相談室の渡邊素子先生をお招きして、ハラスメントに関する講演会を実施した。「ハラスメントに関する基礎的な理解」をテーマにお話をいただき、教育研究の場で起こりうる様々なハラスメントの防止・対策についての理解を深めた。

3) 初年次教育意見交換会の実施

2021 年 10 月 21 日 (水) の教授会終了後、スタートアップセミナー担当者を対象に意見交換会を実施した。この会では、今年度のスタートアップセミナーの講義内容や、今後の指導内容について意見交換を行った。

4) ICT 教育の勉強会の実施

2021 年 12 月 15 日 (水)、18 時より、スカイ株式会社小池一生氏をお招きして、「GIGA スクール構想に伴う小中高等学校の ICT 教育の実態と大学教育への影響」をテーマに勉強会を行った。

5) 卒業研究の成績基準についての検討

学部教務委員会、主任会（経営情報学部・経営情報学研究科 FD 委員会）、教授会の場で、卒業研究の評価基準についての検討をすすめた。

6) 経営情報学部研究会の定期的な開催

研究の情報交換、共同研究のネットワークづくり、研究のブラッシュアップの場として、経営情報学部研究会を定期的で開催し、教員の資質向上に努めた。

(3) 国際関係学部

本年度は本学部が重点を置く以下の項目に関して、「実施方法の改善、留意点」などに関する情報共有を促進していくことで、本学部の『魅力ある授業づくり』に資する内容の FD 活動を行った。

- 1) 学生と協働して創り出していく新しいスタイルの授業「ハイブリット・プロジェクト」の実施を通じて、学生の最新の学修ニーズを確認した後、学部構成員による情報共有を推進し、他の授業科目にもフィードバックした。授業内容の改善によって専任教員が担当する授業のより一層の質の向上を推進した。また、この新たなスタイルの授業を多くの教員が

担当することで、学生とともに教員側の成長をも成し遂げ、大きな反響を呼んだ。よって、雑誌『AERA』中部大学特集号に紹介された。

- 2) 低学年向けの演習系科目（スタートアップセミナー、国際基礎演習、国際応用演習 A、同 B）に関しては、学年・学期ごとに「コーディネーター」としてまとめ役の責任者を決め、授業の事前と事後のフォローアップを担当者全員で行い、学生の学習状況の把握に努めた。またコーディネーターを持ち回りにすることで、すべての教員が科目内容の改善や質の向上に参加するようにした。さらには学部 FD 研究会として「低学年セミナー意見交換会」を開催したことで、成績評価基準の統一および改善点を担当者間で共有し、学部教員全員が共有するとともにそのエビデンスを保存した。
- 3) 本学部が多ディシプリンの専門領域を持つことに鑑み、「卒論閲覧会」を開催し、教員間に共通の意識を醸成した。
- 4) 本学が推進する SDG s にかかる学部の講演会、研究会を実施したことで「授業外の学びの機会」を提供することができ、学生のモチベーションの向上と、教員の知見を深めることができた。

(4) 人文学部

- 1) 2021 年度の人文学部 FD・SD 委員会（2021 年 5・11 月・2022 年 3 月）では、同年度の人文学部 FD 活動の内容を中心に、2020 年度 FD 活動評価点検・実績報告書、第 3 回 中部大学発『魅力ある授業づくり』—学生と考える「魅力ある授業」に向けた学生・教員による Good Idea の公募と選考、2021 年度の遠隔授業に関する学部学科の学生アンケート調査結果の検討、2021 年度人文学部の秋学期の授業評価、2022 年度 FD 活動推進計画書などを検討した。また各学科では、それぞれ学科に沿った FD 活動を積極的に企画して取り組んだ（様式 3 参照）。
- 2) 2021 年度春学期では入学センター事務部長、秋学期では人文学部の教員による講演会を開催した。2021 年度春学期は、入学センター事務部からコロナ禍における受験動向の変化に関連した貴重なデータ資料の紹介や、競合する大学学部学科の動向など、受験者の安定確保にとって参考となる情報が紹介された。また秋学期は、教育活動優秀賞を受賞された人文学部の教員による遠隔授業上の工夫を含めた数々の具体的な授業づくりに関する報告から今後の遠隔授業の授業づくりの参考となるご示唆をいただいた。最後に意見を交えることができ、講演内容について全体で理解を深めた。

(5) 応用生物学部・応用生物学研究科

○学部 FD 委員会の開催（6 回）

適時、委員会を開催し、主に FD 活動推進計画案、FD 活動評価点検報告書案の作成と活動の推進を行なった。

- 1) 2020 年度学部 FD 活動の総括
- 2) 2021 年度教育活動顕彰制度優秀賞の学部評価項目・ポイント、自他による総合評価法の点検
- 3) FD 講演会の計画、運営
- 4) 2022 年度 FD 推進計画案を作成

○学科・専攻単位での FD 推進（適時）

学科及び専攻に固有の FD 課題を抽出し、検討を行った。特に、単位取得数不足、学生生活に適應できていない学生を早期に把握し、教員間で情報共有を行い、対策を行った。

○学部 FD 講演会 (年 2 回)

個々の教員の多くは日々「魅力ある授業づくり」に取り組んでいる。一方、他の教員の取り組みを知る機会は少ない。そこで、2020 年度に教育活動優秀賞を受賞した本学部教員に講演していただき、その取り組みについて情報共有を行った。

1) 講演タイトル「2021 年度ミニマム化学実施報告会」(2021 年 10 月 20 日)

講演者：石田康行 (応用生物学部・応用生物化学科・教授)

化学の基礎学力向上によるサポート対策について、サポーター学生も参加したグループ討論会を行った。「ミニマム化学」と称して、入学早期に化学の基礎をサポーター学生 (学部 3、4 年生や大学院生) がほぼマンツーマンで教えることにより、化学が苦手な学生をサポートすることと、また一方でサポーター学生の成長にも効果がある教育方法の一例として情報提供していただいた。

2) 講演タイトル「留学生を増やす試みの経過報告」(2021 年 12 月 15 日)

講演者：長谷川浩一 (応用生物学部・環境生物科学科・准教授)

長谷川先生が中心になって応用生物学部で行われている留学生を増やす試みについて講演され、留学生を増やすことで日本人学生に及ぼすメリットについて参加者と情報共有した。また、留学生に講義・実験を行う際の注意事項や必要なサポートについて意見交換を行った。

(6) 生命健康科学部・生命健康科学研究科

1) 第 1 回 FD 研修会 (2021 年 9 月 15 日 13:35~15:05、Zoom 開催)

テーマ：「コロナ禍における臨床実習の取り組み」

参加者：81 名

コロナ禍において特に学外での教育活動に大きな制限が掛かっており、その中での臨床実習の具体的な取り組みを振り返り、情報交換を通じて教育の質の向上を目指すものである。各学科から 1 名、特に臨床実習教育に携わる教員により、学内外での臨床実習の取り組みについて発表とその後の質疑応答が行われた。実習の現状報告 (実習先の受け入れ状況など)、学外実習を学内で実施する工夫、学生の自己評価や感想、今後の課題や改善計画などに関して、他学科の状況を共有することができた。次年度も学外実習が制限されることは十分考えられるため、引き続きよりよい学内外の実習実施に向け参考になる研修会であった。

2) 第 2 回 FD 研修会 (2021 年 12 月 15 日~2022 年 1 月 31 日の期間、e-learning 実施)

テーマ：「教員対象のアカデミックハラスメント防止」

参加者：75 名

研修内容は具体例が多く、非常にわかりやすい内容で、教育現場でのハラスメントを防止し、学生とのよりよい関係を築き、よりよい教育を実施するために大いに役立つものであった。

(7) 現代教育学部・教育学研究科

1) FD&SD 委員会構成：

現代教育学部：委員長のもとに、FD 講演会担当と紀要編集担当の 2 名の副委員長を置き、計 6 名の委員で構成

教育学研究科：研究科長を委員長として、専攻主任を副委員長とし、計 6 名の委員で構成

2) 委員会活動

①FD 講演会の実施

3 回の FD&SD 講演会を通して、学部・研究科の構成員の教育・研究活動の質の向上に

関する支援活動を行った。

主なテーマ：・北海道大学の大学生への相談活動に学ぶ
・教員養成における情報化と ICT 化に関する研究動向
・現代教育学部の先達の経験に学ぶ

②学部紀要などの編集発行

教員の教育・研究の成果の公表の場を提供し、教育・研究能力の向上の支援を行った。

(8) 人間力創成総合教育センター

人間力創成総合教育センターとして、全学共通教育科目の魅力ある授業づくりのための改善を次の諸点に対して実施した：授業教授方法・授業内容・体制・施設・設備等の改善・充実と学外の研究会・ワークショップへの参加によるスキルアップ等。

文科省中教審で計画的展開が要請されている「高大連携・接続」の一環として、本学の併設高校との高大連携科目について、併設高校との意見交換、課題検討を行うとともに、高校(生)にとっても魅力ある授業づくりについて議論した。

特に、健康とスポーツ EP では、新型コロナウイルス感染症の予防対策をとり、学生の不安を感じさせないように、実技、講義、遠隔授業が安心して受講できるよう注意を払って実施した。

また、専門職 EP (教職課程) では、教職に就こうとする学生の意欲を高めることを目指して「現職教員の教育実践を聴く会」を実施し、約 80 名が参加し、教職の実際に対する理解を深めた。

さらに、センターにおいては、渡辺「健康とスポーツ」EP 長が講師となり、本年度開催された東京オリンピックにおける卓球女子チームの活躍を育成組織や育成システムの観点から FD 講演会が実施され、今後の教育活動改善の参考となる点が多々報告された。

(9) 国際人間学研究科

1) 講演会・シンポジウム等の開催

シンポジウム「幕末から近代における性の売買」(2022 年 2 月 17 日実施、人文学部歴史地理学科と共催)

2) 研究発表会の開催

①教員研究発表会 (年 2 回：発表者計 4 名)

②院生研究発表会「院生の力」(年 2 回：発表者計 7 名)

3) 報告書等の発行

国際人間学研究科レポート Glocal (Vol.19、 Vol.20) の発行

多くの学部・学科および研究科で独自の活動を展開し、その数も多い。特に人文学部は独自の FD 講演会を多数開催するなど、活発に活動している。このような学部主催の FD 企画は、大学教職員全員が参加対象となる場合、『魅力ある授業づくり』プログラムとして FD 活動 WG で認定されている。このような企画により、大学全体としてより一層幅広い FD 企画が展開されている。

コロナ禍も収束はしないまでも、対面での FD 活動も少しずつ再開されてきている。遠隔授業への対応策が多かった 2020 年度と比較して、より発展的、かつ多様な内容が企画されている。

4. 3 2021年度のFD活動の取り組みの傾向

2021年度の本学のFD活動件数を、目的別、対象別、および内容形式別にまとめたものが次の3つの表である。なお、2013年度以降、「会議」や「打ち合わせ」は当該データから除外している。

まず、目的別にみたFD活動の件数(表2.1)を見ると、目的別の内訳および総数のいずれもコロナ禍以前の2019年度の水準と同等、またはそれ以上の件数となった。オンラインの活用だけでなく、コロナ禍でも安全に配慮して対面実施が増加したことを反映していると思われる。

次に、対象別の件数(表2.2)についても、全学対象、学部・研究科対象および学科・教育科対象ともに開催件数はコロナ禍前の頃とほぼ同数であった。特に、脚注に記載したように、学生を含む活動もコロナ禍以前の水準に戻っており、教職員と学生が一丸となったFD活動が定着していることを示している。

最後に、形式別の件数(表2.3)についても上記と同様、コロナ禍以前の水準に復活した。一方で、ここで示した形式では容易に分類できない実施内容もいくつか見られた。また、『魅力ある授業づくり』プログラムの認定プログラムでは、実施形態に応じて、講演会などの座学形式は1ポイント、実践的なワークショップ形式では2ポイントを認定していることとの関連も考慮して、形式内容の再考も必要な時期にきている。

表 2.1 目的別にみたFD活動(件数)

目的	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
授業・教授法の改善	72	81	69	72
教員資質向上のための研究交流	73	50	66	74
FD活動企画・運営	35	11	26	16
	180	142	161	162

表 2.2 FD活動の対象別にみたFD活動(件数)

対象	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
全学対象	56	49	56	46
学部・研究科対象	32	19	41	39
学科・教育科対象	43	50	51	45
	131	118	148	130
* 表 2.2 のうち、非常勤講師を含む	47	47	44	51
* 表 2.2 のうち、学生を含む	48	29	53	46

表 2.3 形式別にみたFD活動(件数)

内容形式	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
研修会・懇談会	24	37	47	28
講演・報告会	60	27	54	63
ワークショップ・セミナー	23	37	24	26
制度・システムなど	28	25	17	16
	135	126	142	133

※ 上記の3表の合計件数は、重複項目があるため、一致しない。

5. FD 活動に関する学外との連携

5. 1 全国私立大学 FD 連携フォーラムでの活動

全国私立大学 FD 連携フォーラム（略称 JPF）は、中規模以上の私立大学間での FD 分野における連携を目的として 2008 年に発足された。本学は 2012 年に JPF に加盟し、その後 2020 年 6 月から地域担当幹事校、さらに 2021 年 6 月からは代表幹事校を担当している。2021 年度には代表幹事校として、大学間での連携強化を志向した以下の活動を行った。

1) 2021 年度 代表幹事校ミーティング

日時：2021 年 10 月 4 日（月）13：30～15：00

形式：オンライン

2) 2021 年度 幹事校・会員校ミーティング

日時：2022 年 1 月 28 日（金）13：00～14：00

形式：オンライン

3) 2021 年度 懇談会企画

日時：2022 年 1 月 28 日（金）14：00～16：30

形式：オンライン

テーマ：大テーマ：With/After コロナ時代における高等教育について

内容：2 つのテーマ（授業のあり方・FD 活動のあり方）について、各大学における特色ある取り組みや課題を共有した。

参加者数：60 人

6. FD 活動に関する課題と今後の計画

2020 年度は、コロナ禍の影響により FD 活動も様々な制約を受けることになり、それらの“実施に向けて知恵を出し合い、将来のアフターコロナにおける展開につなげていく（2020 年度の報告書より）”ことが必要とされた。これに対して、2021 年度には、オンラインツールの活用に加えて、安全に配慮した対面実施も徐々に増え、質・量ともにコロナ禍前の水準に戻ったと言える。さらに、単に回復しただけでなく、ハイブリッド形式の採用や各種 ICT 技術の高度な活用など、コロナ禍によって FD 活動の方法論に新たな展開が生じた。加えて、内容的にも ICT ツールの活用、コロナ禍での学生指導の注意点、および学生と一緒に考える授業改善など、大学の構成員の意見や要望を反映したものが中心となった。

一方で、以下に示すような課題も明らかとなった。

・専任教職員および非常勤講師が一体となった FD 活動の取り組みについて

本学では、非常勤講師も FD 活動に積極的に参加しており、専任教職員と非常勤講師が一体となった取り組みは本学における FD 活動の特徴の一つである。しかし、非常勤講師の授業評価における回答率やコメント率は 50%程度であり、全体の値を押し下げる要因となっている。今後、授業評価の趣旨の周知と理解を通して、非常勤講師の参加率を上げることが必要である。

・一部の FD 行事の参加率の向上について

ここ数年、各種 FD 活動への全体的な参加者数に変化はないが、教員の多忙化が進んでいることなどから、授業サロンについては 5 人の参加者を揃えることが容易ではない学期がしばしばある。良い企画であることは誰もが認めるところであるので、今後、潜在的な参加者の掘り起こしや、より柔軟な運営方法の採用など、様々な切り口で対応を図ることが重要である。